

第4回釧路都心部まちづくり推進協議会（準備会）

議事要旨

■日時：令和元年7月9日（火）14:00～15:50

■場所：釧路市役所 防災庁舎5階 災害対策本部室

■出席者：末頁のとおり

■議事

- (1) 第3回協議会（準備会）の主な意見と対応方針、議事概要
- (2) 事業構想編策定に向けた検討項目及び個別検討テーマについて
- (3) 公民連携PJ推進チームの活動について
- (4) その他

■議事要旨

○ゲートウェイの市街地目標像・整備方針の検討について

高見委員（有識者）

- ものを考えるには事業構想を検討する範囲が狭い。事業を実施したときには、まちが変わった印象が欲しい。鉄道は高架になるが、駅前の現状維持感が強い。周囲を見て、優良なストック（業務ビル、住宅等）がどれ位あるのかというボリューム論があったうえで、どの位がゲートウェイに入ってくるのかという議論が必要。
- これからの時代を考えると『トピック的な土地利用』、『特徴的な空間』と、この位の量はこの場所だったらあってもいいだろうという『手堅いもの』が揃わないと新しい雰囲気が出ないと思う。
- 画期的なのは、新設道路が鉄道を越えて直結されること。車両交通はできるだけ通さないという説明があったが、最初に通してしまうとそうはいかないと思う。車の方が便利になると、高架化されても道路で東西が分断せざるを得ないため、もうひと知恵ほしいところ。
- また、北大通との一体性はもちろん重要だが、公共公益施設や和商市場の配置などを考えると、和商市場側にも可能性があるため、それと駅との一体性ももう少し追及したい。

松井委員（有識者）

- ゲートウェイを考えていくうえで重要なことは、市民や来訪者が魅力を感じて、ここに“しょっちゅう集まれる場所”が出来るかということ。例えば、天気の良い日に、高齢者や一般の人達の「ちょっと行ってみるか」という行動を日常的に誘発できる場を用意できるかという事が重要。
- そこでポイントになるのが新設道路の方向。幹線道路が北大通の延長線上にあるのがベストなのかということ。通過交通を通すということであれば直線という考えはあるが、土地利用を考えた場合は駅に直行する線形の方がよい。まず、目指す土地利用、交通施設とか、あるいは魅力的な場所を考えながら、この北大通と向こうに行く人達がどの様な過ごし方をするかを考えると、斜めの土地利用が解消されると思う。
- いったん交通開放した後にトランジットモール化するといっても、歩行者中心に切り替えるのは難しい。土地利用もいったん斜めの方向にすると、様々な制約がでてきてしまうので出来るだけ直行するような土地利用を考えた方がよい。
- また、新設道路は広幅員のため、車線部分と歩行者部分は必ずしもリニアな関係になくてもいい。歩道部分だけ斜めにして車道部分は直行に通すなど、ここは一生懸命考える価値がある。

- これからの議論になるが、『駅施設と建物を含めて全体的に考える』というのもある。鉄道の上に建物を建てるということができれば土地利用の自由度が凄く上がる。ここは鉄道用地の換地もあるので、管理の話も含めて計画的につくれば一体的な土地利用ができる可能性がある。最初から可能性を排除してしまうのもよくないので、機能面の話などが詰まってきて、まち側と鉄道側両方にメリットがでてくるのであれば、そういう事も考えられたらよい。

高野座長

- 新設道路は必ずしも直線ではなくても、車を通すか通さないかの話は別として、道路沿道に色々な施設を張り付けていくことで、釧路駅の北側にも土地利用の転換を広げていくことが必要。沿道区画整理的なイメージで展開しないと北側が変わらないで終わってしまう可能性があり、どうやって北側エリアに広げていくかというのも重要な課題である。

○都心部のまちの構造（3拠点を中心としたまちづくり）について

高見委員（有識者）

- このまちの構造は、繁華街や客船ターミナルがある幣舞橋周辺の拠点と、釧路駅を中心とした新しい拠点がある。それを繋ぐ通りの中心に新図書館がある。図書館は集客能力があり、ここに何か意味付けをし、この3つの拠点をどう有機的に繋げるかということがゲートウェイを考える土台としては良いと思う。
- 新設道路があると、東西が分断されてしまい乱横断できる土地利用が成立しにくくいので、まず3つの拠点を一体的な塊で考え、つなぎ方をどうするか考えると分かりやすい。つなぎ方は、市民やまちで活動している方に色々意見やアイデアを聞くのも良いと思う。

北海道開発局

- 釧路駅と幣舞橋をどう繋ぐかというところで、基本的には歩いてまちを回遊する仕掛けをつくれるとよい。距離が結構あるので、途中で一息つけるような場所（施設、緑、水辺など）があって、次の場所に移れる空間があるとよい。また、徒歩だけではなく自転車など、「早い交通」「遅い交通」を駅前を選んで出かけられる様な仕組みが出来ればよい。

高野座長

- 今の話に関連することとして、都心部内を循環しているバス路線（たくぼく循環線）と、中央図書館の利用状況（利用者属性と利用頻度）については確認する必要がある。
- もう一つの検討テーマとして、交通ネットワークの考え方がある。基本的にFRINGEパーキングを活用して都心部に通過交通は極力通さない、都心部内の拠点間は公共交通等で連絡するという提案だが、-20度とかにもなる冬季の間で可能なのか、釧路の地域性にも配慮する必要がある。

吉田委員（釧路市産業振興部）

- 観光の側面では都心部をみると、MOOと和商市場の動線が圧倒的に太く、それ以外が毛細血管のようになっている。そのため、観光のメインはリバーサイドで、そこから駅前方面へ向かう需要は和商市場程度となっている。出来ればリバーサイドと釧路駅を中心とした二大エリアができるのが理想。天気の悪い日にいる場所がないと観光客から言われており、MOOしか行く所がないの現状。JRを利用しない人にとって駅に行く魅力がないというのが実情なので、釧路駅もある程度観光客にとって魅力のある場所になってもらえればというのが観光サイドからの希望。

以上

第4回釧路都心部まちづくり推進協議会（準備会）

出席者名簿

第4回 釧路都心部まちづくり推進会議（準備会） 出席者名簿

令和元年7月9日（火） 14:00～15:50

場所:釧路市役所 防災庁舎5階 災害対策本部室

	団体名・所属部署名		役職	氏名	備考
委員	有識者	北海道大学 公共政策学連携研究部	教授	高野 伸栄	(座長)
		日本測地設計(株)	副社長	松井 直人	
		法政大学デザイン工学部 都市デザイン工学科	教授	高見 公雄	
	釧路市	総合政策部	部長	岡本 満幸	
		産業振興部	部長	秋里 喜久治	
		産業振興部	観光振興担当部長	吉田 英樹	
		都市整備部	部長	市原 義久	
オブザーバー	北海道開発局	事業振興部都市住宅課	都市事業管理官	福原 英之	
	北海道開発局 釧路開発建設部	道路計画課	道路計画課長	小林 孝士	
	北海道建設部 まちづくり局	都市環境課街路グループ	主査	深谷 弘明	
		まちづくり推進グループ	主査	清水 洋一	
	北海道釧路総合振興局 釧路建設管理部	事業室道路課	道路課長	新田 和宏	
	北海道旅客鉄道(株)	総合企画本部地域計画部	主幹	吉野 哲也	
事務局	釧路市	総合政策部	都心部まちづくり 担当部長	米山 晋司	
		総合政策部都心部まちづくり推進室	室長	吉岡 亨	
		総合政策部都心部まちづくり推進室	専門員	山田 智史	
		総合政策部都心部まちづくり推進室	主査	吉田 良平	
	公益社団法人 日本交通計画協会				